



9月19日（日） A会場（国立京都国際会館 1階 メインホール）

8:30~9:30 教育講演 1

司会：本多 義治 医療法人爽神堂七山病院

EL1 精神疾患の多因子性とその臨床的な意味

○神庭 重信^{1,2,3}

¹日本うつ病センター、²医療法人栗山会飯田病院、³九州大学名誉教授



9:30~10:30 教育講演 2

司会：入澤 聡 いらさわ心と体のクリニック

EL2 最近の薬物関連精神障害の傾向と対策

○松本 俊彦

国立精神・神経医療研究センター



10:40~11:40 教育講演 3（男女共同参画推進委員会）

司会：加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニック

EL3 女が増えると精神神経医学は変わるか？

○上野 千鶴子

東京大学名誉教授



11:40~12:40 会長講演

司会：川壽 弘詔 福岡大学医学部精神医学教室

PL 精神科医として40年

○木下 利彦

関西医科大学医学部精神神経科学講座



13:10~14:10 特別講演 1

司会：木下 利彦 関西医科大学医学部精神神経科学講座

SL1 分析・医用機器を用いたアルツハイマー病変の早期検出

○田中 耕一
株式会社島津製作所14:10~15:10 先達に聴く 1
抗うつ薬の精神薬理 ～モノアミン仮説の精細化と薬物選択における次元的アプローチ～

司会：松永 寿人 兵庫医科大学精神科神経科学

PM1 抗うつ薬の精神薬理 ～モノアミン仮説の精細化と薬物選択における次元的アプローチ～

○小山 司
医療法人重仁会大谷地病院臨床研究センター

15:20~16:20 教育講演 4

司会：岸本 年史 秋津鴻池病院

EL4 「あの素晴らしい愛」について ―日本の母子像から精神分析的に学ぶ―

○北山 修
北山精神分析室

16:20~17:20 先達に聴く 2

司会：川崎 弘詔 福岡大学医学部精神医学教室

PM2 時代の変化が精神科医に求めているもの

○西園 昌久
福岡大学名誉教授〈コーディネーター〉 平野 羊嗣 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
香月 あすか 社会福祉法人二丈福祉会



17:30~19:30 **委員会シンポジウム 1 (薬事委員会)**
精神疾患の薬物療法 up to date

司会：三村 將 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
三野 進 みのクリニック

CS1-1 精神疾患の適切な診断と評価に基づく向精神薬の適正使用

○尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

CS1-2 統合失調症の薬物療法 up to date

○橋本 亮太
国立精神・神経医療研究センター

CS1-3 気分障害における薬物治療 up to date

○渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

CS1-4 認知症に対する薬物療法：最近の動向

○三村 將
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

CS1-5 てんかんの薬物療法—開始する前にまずは一歩立ち止まろう

○兼本 浩祐
愛知医科大学精神科学講座

〔指定発言〕

古郡 規雄
獨協医科大学精神神経医学講座

〈コーディネーター〉 橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター
古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座

9月19日（日） B会場（国立京都国際会館 1階 Room A）

8:30~10:30

シンポジウム 1

統合失調症の大脳皮質ニューロンの変化とそのメカニズム

司会：井出 政行 筑波大学医学医療系精神医学
 紀本 創兵 奈良県立医科大学精神医学教室

S1-1

統合失調症の大脳皮質介在ニューロンの変化：領域および疾患特異性

○橋本 隆紀^{1,2}¹金沢大学大学院医研究科、²ピッツバーグ大学精神医学部門トランスレーショナルニューロサイエンスプログラム

S1-2

前頭前野の錐体ニューロンにおける分子発現の変化からみた統合失調症の認知機能障害の生物基盤

○紀本 創兵

奈良県立医科大学精神医学教室

S1-3

統合失調症における硫化水素の産生過剰の効果と弊害

○井出 政行¹、大西 哲生²、吉川 武男²¹筑波大学医学医療系精神医学、²国立研究開発法人理化学研究所

S1-4

Cell Type-Specific Transcriptional and Ultrastructural Analyses of Mitochondria in the Prefrontal Cortex of Schizophrenia Subjects

○Jill Glausier

Translational Neuroscience Program, Department of Psychiatry, University of Pittsburgh

〈コーディネーター〉 菊知 充 金沢大学大学院医研究科
 橋本 隆紀 金沢大学大学院医研究科、ピッツバーグ大学精神医学部門トランスレーショナルニューロサイエンスプログラム

10:40~12:40

シンポジウム 2

認知症初期集中支援チームにおける精神科医の役割と意義

司会：池田 学 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室
 大久保 善朗 医療法人社団聖美会多摩中央病院

S2-1

熊本県における認知症初期集中支援チームの実践報告と今後の課題

○石川 智久

熊本大学病院神経精神科

S2-2

堺市認知症初期集中支援チームにおける精神科医の関わり

○繁信（釜江）和恵

公益財団法人浅香山病院

S2-3

初期集中支援チームにおける困難事例とその課題

○佐竹 祐人、池田 学

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

S2-4

コロナ禍における認知症初期集中支援チームの活動と精神科医の参画意義

○池田 学

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

〈コーディネーター〉 池田 学 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室



13:10~15:10

シンポジウム 3

稀な生物学的特徴を伴う統合失調症患者を対象にその病態を調べる

司会：尾関 祐二 滋賀医科大学精神医学講座
中村 雅之 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

S3-1

均衡型相互転座 t(3;9)(q13.12;q21.2) を伴う統合失調症患者の病態検討と一般への敷衍

○尾関 祐二
滋賀医科大学精神医学講座

S3-2

特異的な中間表現型を伴う統合失調症家系における新規KDM2B変異ーヒストンメチル化修飾と統合失調症ー

○横塚 紗永子、中村 雅之
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

S3-3

統合失調症における、missing heritability problemへの挑戦

○森本 芳郎^{1,2}、松坂 雄亮¹、金替 伸治¹、今村 明^{1,2}、小澤 寛樹^{1,2}
¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経科学、²長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

〈コーディネーター〉 尾関 祐二 滋賀医科大学精神医学講座
中村 雅之 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

15:20~17:20

シンポジウム 4

レビー小体型認知症の前駆状態と老年期精神障害 —Psychiatric-onset DLB—

司会：池田 学 大阪大学大学院医学系研究科
藤城 弘樹 かわさき記念病院

S4-1

Prodromal DLBの研究目的の臨床診断基準について

○藤城 弘樹
かわさき記念病院

S4-2

Prodromal DLBとしてのレム睡眠行動障害—進展予測因子とその多様性

○笹井 妙子
帝京大学医療技術学部臨床検査学科

S4-3

レビー小体型認知症をはじめとする老年期精神障害の病理学的背景

○河上 緒
東京都医学総合研究所

S4-4

高齢発症の精神障害のprodromal DLBとしての知見と課題

○鐘本 英輝、池田 学
大阪大学大学院医学系研究科精神医学

〈コーディネーター〉 鐘本 英輝 大阪大学大学院医学系研究科
池田 学 大阪大学大学院医学系研究科

17:30~19:30 **シンポジウム 5**
大学病院における精神医学教育の役割

司会：水野 雅文 東京都立松沢病院
川崎 弘詔 福岡大学医学部精神医学教室

S5-1 **東邦大学における精神医学教育**

○根本 隆洋
東邦大学医学部精神神経医学講座

S5-2 **九大精神科における精神医学教育**

○中尾 智博
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S5-3 **大学病院における精神医学教育は如何に医療者の持つスティグマを軽減できるのか？**

○菱本 明豊
横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門

S5-4 **大学病院における研修の魅力 - 日本大学精神医学教室における教育 -**

○鈴木 正泰
日本大学医学部精神医学系

〈コーディネーター〉 水野 雅文 東京都立松沢病院
川崎 弘詔 福岡大学医学部精神医学教室



9月19日（日） C会場（国立京都国際会館 1階 Room B-1）

8:30~10:30

シンポジウム6

思春期アットリスク精神状態の評価・判定の向上を多面的に試みる

司会：水野 雅文 東京都立松沢病院
太田 豊作 奈良県立医科大学医学部看護学科人間発達学

S6-1

半構造化面接によるリスク評価および症状との共生

○松田 真理子
京都文教大学

S6-2

思春期アットリスク精神状態に対する心理学的評価について

○岸本 直子
奈良県立医科大学精神医学講座

S6-3

精神病発症リスク状態の評価研究 -当施設における神経生理学的所見を中心に

○樋口 悠子^{1,2}、西山 志満子^{1,3}、立野 貴大^{1,2}、中島 英^{1,2}、高柳 陽一郎¹、笹林 大樹^{1,2}、水上 祐子¹、高橋 努^{1,2}、鈴木 道雄^{1,2}

¹富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、²富山大学アイドリング脳科学研究センター、³富山大学学術研究部教育研究推進系保健管理センター

S6-4

思春期アットリスク精神状態の脳画像的評価

○岡崎 康輔
奈良県立医科大学精神医学講座

〈コーディネーター〉 太田 豊作 奈良県立医科大学医学部看護学科人間発達学
飯田 順三 医療法人南風会万葉クリニック子どものこころセンター絆

10:40~12:40

シンポジウム7

クロザピンをこれまで以上に活用するために

司会：菊池 結花 ハートケアクリニックおおまち
稲田 健 東京女子医科大学神経精神科教室

S7-1

CPMSから考えるクロザピンの使い方

○上野 雄文
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

S7-2

クロザピン治療を増やすために～日本の全例調査におけるクロザピン患者の使用実態と中止リスク因子の検討～

○豊田 勝孝¹、畑 武生²、今津 伸一¹、岡山 達志¹、西澤 由貴¹、丸山 惣一郎¹、久保 洋一郎¹、山内 繁¹、木下 真也¹、稲田 健³、金沢 徹文¹

¹大阪医科薬科大学病院神経精神医学教室、²大阪医科薬科大学病院薬剤部、³東京女子医科大学神経精神科教室

S7-3

クロザピン普及のためのアンケート調査

○古郡 規雄¹、新津 富央²
¹獨協医科大学、²千葉大学大学院医学研究院精神医学教室

S7-4

クロザピンの血中濃度モニタリングはクロザピンのより良い普及のために役立つ

○赤嶺 由美子
秋田大学医学部附属病院薬剤部

S7-5 クロザピン治療におけるHLA-B*59:01遺伝子検査の費用対効果を用いた有用性の検討

○二宮 光平、岩田 仲生
藤田医科大学精神神経科学

〈コーディネーター〉 金沢 徹文 大阪医科薬科大学神経精神医学教室
菊池 結花 ハートケアクリニックおおまち
稲田 健 東京女子医科大学神経精神科教室

13:10~15:10 委員会シンポジウム 2 (精神科病名検討連絡会、精神科用語検討委員会)
ICD-11に採用する新病名の概要およびその経緯

司会：神庭 重信 日本うつ病センター、医療法人栗山会飯田病院、九州大学名誉教授
針間 博彦 都立松沢病院

CS2-1 ICD-11における精神科関連日本語病名について：障害から症への変更

○神庭 重信^{1,2,3}
¹日本うつ病センター、²医療法人栗山会飯田病院、³九州大学名誉教授

CS2-2 psychosis：「精神病」から「精神症」へ

○針間 博彦
東京都立松沢病院

CS2-3 ICD-11における「気分障害 (ICD-10)」関連の用語について

○太田 敏男^{1,2}
¹社会医療法人財団石心会さやま総合クリニック、²埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

CS2-4 ICD-11に採用する新病名：規則的でない変更を経た新病名の紹介

○松本 ちひろ
日本精神神経学会

〈コーディネーター〉 松本 ちひろ 日本精神神経学会

15:20~17:20 シンポジウム 8
難治性とされる自閉症スペクトラム症と双極性障害の病態における脂肪酸の役割と治療的展開

司会：油井 邦雄 藤田医科大学腎泌尿器外科学講座

S8-1 多価不飽和脂肪酸含有脂質代謝酵素ジアシルグリセロールキナーゼηと双極性障害との関連

○坂根 郁夫
千葉大学大学院理学研究院生体機能化学研究室

S8-2 自閉症スペクトラム障害の病因における多価不飽和脂肪酸代謝異常

○橋本 謙二
千葉大学社会精神保健教育研究センター

S8-3 脳内シグナリング伝達タンパクと自閉症スペクトラム障害の社会性障害

○油井 邦雄
藤田医科大学腎泌尿器外科学講座



S8-4 自閉症スペクトラム傾向と栄養素摂取との関連

○中村 美詠子
浜松医科大学

〈コーディネーター〉 油井 邦雄 藤田医科大学腎泌尿器外科学講座
功刀 浩 帝京大学医学部精神神経科学講座、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

17:30~19:30 シンポジウム9
我が国の月経前不快気分障害(PMDD)のこれから

司会：大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター
武田 卓 近畿大学東洋医学研究所

S9-1 月経前特有の心身不調 (PMS / PMDD) の実態を探る

○松本 珠希
四天王寺大学教育学部教育学科保健教育コース

S9-2 Premenstrual Disorders (PMDs) に対する新規治療薬候補ピリドキサミンについて

○武田 卓
近畿大学東洋医学研究所

S9-3 女性ホルモンからみたPMDD

○高松 潔
東京歯科大学市川総合病院産婦人科

S9-4 月経前不快気分障害 (PMDD) 専門外来からみえること

○大坪 天平
東京女子医科大学東医療センター

【指定発言】

小川 真里子
東京歯科大学市川総合病院産婦人科

〈コーディネーター〉 大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター
武田 卓 近畿大学東洋医学研究所

9月19日（日） D会場（国立京都国際会館 1階 Room B-2）

8:30～10:30

委員会シンポジウム 3（倫理委員会）

日本精神神経学会倫理教育研修対象セッション

倫理指針改正による多施設研究と試料・情報利用研究へのインパクト

司会：栗原 千絵子（国研）量子科学技術研究開発機構
加藤 忠史 順天堂大学大学院医学研究科精神行動科学講座

CS3-1 改正医学系指針の下での精神医学研究の課題とその対応 —本学会研究の考察を踏まえて—

○飯島 祥彦
藤田医科大学医学部生命倫理学

CS3-2 国立精神・神経医療研究センターにおける新統合指針への対応について～精神疾患レジストリの事例を中心に～

○小居 秀紀
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター情報管理・解析部

CS3-3 精神科領域における多施設共同研究の実際と研究倫理

○橋本 亮太
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

CS3-4 倫理審査一括化について、当事者・家族が期待すること・危惧すること

○夏莉 郁子
やきつべの径診療所

〔指定発言〕

尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神科・親と子どもの心療科

〈コーディネーター〉 栗原 千絵子（国研）量子科学技術研究開発機構
加藤 忠史 順天堂大学大学院医学研究科精神行動科学講座

※参加された方のうち希望者に「倫理教育研修会修了証」を発行いたします

※専門医機構認定 共通講習とは異なります

10:40～12:40

委員会シンポジウム 4（精神療法委員会）

with/post コロナ時代の精神療法に向けて —今私たちの課題—

司会：福田 正人 群馬大学
岡野 憲一郎 京都大学

CS4-1 オンライン精神療法 —力動精神医学的課題—

○渡辺 俊之
渡辺医院

CS4-2 とりあえずできることをしようと考えて、オンライン診療を始めた経緯：必然として、引き出しの一つとして

○布施 泰子
茨城大学保健管理センター

CS4-3 精神療法を学びほぐす

○白波瀬 丈一郎
東京都済生会中央病院



CS4-4 デジタル精神療法時代への戸惑いと適応

○菊地 俊暁
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

〔指定発言〕

大野 裕
大野研究所

〈コーディネーター〉 白波瀬 丈一郎 東京都済生会中央病院
池田 暁史 文教大学

13:10~15:10 シンポジウム 10
精神科医が知っておくべき高次脳機能

司会：三村 將 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
村井 俊哉 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)

S10-1 精神科臨床に役立つ記憶障害の診かた

○三村 將
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S10-2 高次脳機能障害に含まれる精神医学的症状：外傷性脳損傷を中心に

○上田 敬太
京都大学大学院医学研究科

S10-3 精神科医に求められている高次脳機能障害者の生活および就労の支援

○船山 道隆
足利赤十字病院

S10-4 高次脳機能障害として診る非アルツハイマー型認知症

○西尾 慶之
東京都立松沢病院

〈コーディネーター〉 船山 道隆 足利赤十字病院
三村 將 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

15:20~17:20 委員会シンポジウム 5 (心理職に関する委員会)
チーム医療における公認心理師の役割 ～活動、連携、さらなる可能性～

司会：松田 ひろし 医療法人立川メディカルセンター柏崎厚生病院
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

CS5-1 大学病院における公認心理師の役割

○大江 悠樹^{1,2}、栗原 真理子¹
¹杏林大学医学部精神神経科学教室、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

CS5-2 医療観察法病棟における公認心理師の役割

○鈴木 敬生
国立精神・神経医療研究センター

CS5-3 児童精神科における公認心理師の役割

○宇佐美 政英¹、板垣 琴瑛²、吉田 雪乃²、行方 沙織²
¹国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科、²国立国際医療研究センター国府台病院心理指導室

CS5-4 公認心理師によるうつ病, 成人発達障害支援

○横山 太範

さっぽろ駅前クリニック北海道リワークプラザ

〈コーディネーター〉 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
西松 能子 立正大学

17:30~19:30 シンポジウム 11
rTMSの生物学的基盤

司会：高橋 隼 和歌山県立医科大学
野田 賀大 慶應義塾大学

S11-1 rTMS-EEG同時計測による非線形神経ダイナミクスへの摂動的アプローチ

○北城 圭^{1,2,3}¹自然科学研究機構・生理学研究所・神経ダイナミクス研究部門、²総合研究大学院大学・生命科学研究科・生理科学専攻、³理化学研究所・脳神経科学研究センター・CBS-トヨタ連携センター・脳リズム情報処理連携ユニット

S11-2 神経精神疾患におけるTMS臨床研究

○高橋 隼

和歌山県立医科大学

S11-3 rTMSによる治療抵抗性うつ病の認知機能障害改善と炎症プロセスとの関連

○立石 洋、門司 晃

佐賀大学医学部精神医学講座

S11-4 うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) 療法の生物学的治療メカニズムの解明に向けて

○野田 賀大

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

〈コーディネーター〉 高橋 隼 和歌山県立医科大学
池田 俊一郎 関西医科大学医学部精神神経科学講座



9月19日（日） E会場（国立京都国際会館 1階 Room C-1）

8:30~10:30

シンポジウム 12

本邦の高齢者を対象とする疫学研究の結果から、認知症施策の在り方を考える

司会：門司 晃

佐賀大学医学部精神医学講座

S12-1

地域高齢住民における認知症の実態とその危険因子・防御因子：久山町研究

○小原 知之^{1,2}、二宮 利治²

¹九州大学大学院医学研究院精神病態医学、²九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学

S12-2

認知症フレンドリー社会の実現をめざした地域疫学研究

○栗田 圭一

東京都健康長寿医療センター研究所

S12-3

地域在住一般住民における脳MRI健診：認知機能低下の機序に関する検討

○八尾 博史

国立病院機構肥前精神医療センター臨床研究部

S12-4

高齢者の精神的健康を維持するために－伊万里市黒川町研究から－

○溝口 義人、今村 義臣、門司 晃

佐賀大学医学部精神医学講座

〈コーディネーター〉 門司 晃

佐賀大学医学部精神医学講座

10:40~12:40

シンポジウム 13

神経化学への誘い ―精神科で神経化学研究を行う意義―

司会：工藤 喬

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター

牧之段 学

奈良県立医科大学精神医学教室

S13-1

精神科領域を神経化学する魅力

○小泉 修一^{1,2}

¹山梨大学大学院総合研究部医学域薬理学講座、²山梨大学GLIAセンター

S13-2

αシヌクレインの構造と病態の関連について

○望月 秀樹

大阪大学大学院医学系研究科神経内科学

S13-3

精神疾患病態への炎症メカニズムの関与～神経化学がもたらす精神科臨床向上への期待～

○富田 博秋

東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

S13-4

臨床精神科医だからできる神経化学研究

○牧之段 学

奈良県立医科大学精神医学教室

S13-5

精神神経疾患における血液バイオマーカーの可能性

○工藤 喬

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター

〈コーディネーター〉 工藤 喬

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター

13:10~15:10 **シンポジウム 14**
副作用被害救済制度から見えてくる向精神薬使用方法の問題点

司会：木下 玲子 医療法人社団正心会よしの病院
鈴木 映二 東北医科薬科大学

S14-1 **医薬品副作用被害救済制度について**

○高山 知子
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課

S14-2 **セイフティネットとしての疑義照会**

○木下 玲子
よしの病院

S14-3 **リチウムの副作用をどうしたら防げるか？**

○鈴木 映二
東北医科薬科大学

S14-4 **ラモトリギンと炭酸リチウムの不適正な使用について**

○山田 和男
東北医科薬科大学病院

S14-5 **医薬品の副作用と医師の注意義務**

○峯川 浩子
常葉大学法学部

〈コーディネーター〉 鈴木 映二 東北医科薬科大学
山田 和男 東北医科薬科大学

15:20~17:20 **シンポジウム 15**
自殺対策としてやったこと、そして

司会：織田 裕行 関西医科大学医学部精神神経科学講座
高瀬 勝教 医療法人桐葉会木島病院

S15-1 **20年のふりかえりと未来に向けて**

○織田 裕行
関西医科大学医学部精神神経科学講座

S15-2 **当院における自殺対策の変遷**

○山田 妃沙子
関西医科大学総合医療センター精神神経科

S15-3 **時代に根差した自殺予防を目指して**

○丹羽 篤
近畿大学病院

S15-4 **未遂者に対する確実な支援と施設に拘らない支援体制の構築に向けて**

○岡村 和哉
奈良県立医科大学精神医学講座

〈コーディネーター〉 織田 裕行 関西医科大学医学部精神神経科学講座
山田 妃沙子 関西医科大学総合医療センター



17:30~19:30 シンポジウム 16

抗体介在性自己免疫性脳炎と精神疾患

司会：神林 崇 茨城県立こころの医療センター筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

S16-1 自己免疫病態による精神疾患と認知症

○田中 恵子^{1,2}、川村 名子¹、筒井 幸³、崎村 建司¹、阿部 学¹

¹新潟大学脳研究所モデル動物開発分野、²福島県立医科大学、³秋田大学医学部附属病院

S16-2 自己免疫性精神病：発症機序と多彩な精神症状

○高木 学¹、酒本 真次¹、岡久 祐子¹、山田 了士²

¹岡山大学病院精神科神経科、²岡山大学精神神経病態学教室

S16-3 免疫性精神病と甲状腺抗体陽性の精神科疾患患者におけるバイオマーカーとしての自己抗体について

○千葉 悠平^{1,2}、阿部 紀絵²、斎藤 知之⁴、勝瀬 大海²、高橋 幸利³、須田 顕²、服部 早紀²、吉見 明香²、
浅見 剛²、西野 精治⁵、菱本 明豊²

¹積愛会横浜舞岡病院、²横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門、³静岡てんかん神経医療センター、

⁴よりどころメンタルクリニック横浜駅西口、

⁵Stanford University School of Medicine, department of Psychiatry, Sleep and Circadian

S16-4 抗NMDAR抗体と精神症状

○筒井 幸^{1,2,6}、柴田 菜那¹、馬越 秋瀬¹、嵯峨 佑史²、神林 崇^{3,4}、加藤 倫紀²、三島 和夫¹、加藤 征夫²、
田中 恵子⁵

¹秋田大学附属病院、²医療法人祐愛会加藤病院、³茨城県立こころの医療センター、⁴筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、

⁵新潟大学脳研究所モデル動物開発分野、⁶平鹿総合病院

〈コーディネーター〉 筒井 幸 秋田大学附属病院
神林 崇 茨城県立こころの医療センター筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構
来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

9月19日（日） F会場（国立京都国際会館 1階 Room C-2）

8:30～10:30

委員会シンポジウム 6（アンチスティグマ委員会）

本人のもつセルフスティグマに気づき、支えよう 統合失調症、認知症、そして、てんかん、ギャンブル依存症

司会：渡辺 雅子 新宿神経クリニック
小口 芳世 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

CS6-1 統合失調症とセルフスティグマ

○小口 芳世
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

CS6-2 てんかん患者のセルフスティグマ実態とその低減に向けた効果的介入方法に関する検討

○倉持 泉
埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック

CS6-3 ギャンブルに関する問題を有する方のセルフスティグマ

○入来 晃久
大阪精神医療センター・こころの科学リサーチセンター

CS6-4 認知症診療におけるセルフスティグマについて

○笠貫 浩史
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

〔指定発言〕

堀川 公平
医療法人コミュニティ風と虹のぞえ総合心療病院

〈コーディネーター〉 渡辺 雅子 新宿神経クリニック
小口 芳世 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

10:40～12:40

委員会シンポジウム 7（精神医学・精神医療に関するパラダイムシフト調査班合同企画）

当事者視点の精神医療に向けて：精神医学・精神医療に関するパラダイムシフト調査班報告

司会：鹿島 晴雄 慶應義塾大学
尾崎 紀夫 名古屋大学

CS7-1 当事者研究と研究の共同創造

○熊谷 晋一郎
東京大学先端科学技術研究センター

CS7-2 海外の当事者は精神科医療をどのように評価しているのか～患者満足度調査の文献展望から～

○夏莉 郁子
やきつべの径診療所

CS7-3 地域精神保健研究における患者・市民参画：精神疾患を有する当事者による報告

○小川 亮
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部

CS7-4 当事者の経験知を専門知と対等に扱う：精神科強制入院決定の患者の経験を知る協働質的研究を通じて考える

○杉浦 寛奈¹、北中 淳子²
¹東京大学、²慶應義塾大学



〔指定発言〕

北中 淳子
慶應義塾大学

〈コーディネーター〉 北中 淳子 慶應義塾大学

13:10～15:10 **委員会シンポジウム 8 (多職種協働委員会)**

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム—多職種でとりくむ長期入院患者の地域移行支援の現状と課題—

司会：佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル
島山 卓也 駒沢女子大学

CS8-1 **力動的チーム医療による長期入院患者の地域移行支援 ～病院や地域をケースワークする視点～**

○神部 宏
医療法人コミュニテ風と虹のぞえの丘病院

CS8-2 **地域移行支援における栄養・食事の現状と課題**

○阿部 裕二^{1,3}、西宮 弘之^{2,3}

¹国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院、²公益財団法人積善会曾我病院、³全国精神科栄養士協会

CS8-3 **多職種でとりくむ長期入院患者の地域移行支援の現状と課題—作業療法士の立場から—**

○岩根 達郎
京都府立洛南病院

CS8-4 **当院での多職種連携による地域移行支援の取り組み～長期入院患者の退院を見据えて～**

○和田 智仁
総合心療センターひなが

CS8-5 **多職種でとりくむ長期入院患者の地域移行支援の現状と課題 (看護職の視点から)**

○高田 久美
南部町国民健康保険西伯病院

〔指定発言〕

堀川 公平
医療法人コミュニテ風と虹のぞえ総合心療病院

〈コーディネーター〉 佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル
島山 卓也 駒沢女子大学

15:20～17:20 **シンポジウム 17**

コロナ問題に、リエゾンチーム、緩和ケアチームができること

司会：佐伯 吉規 がん研有明病院
北浦 祐一 パナソニック健康保険組合松下記念病院精神神経科

S17-1 **コロナ禍における緩和ケア ～大規模な院内感染を経験して～**

○廣橋 猛
永寿総合病院がん診療支援・緩和ケアセンター

S17-2 **コロナ禍においてリエゾンチームができること**

○安井 玲子
虎の門病院精神科

S17-3 COVID-19パンデミック下における社会と医療が受ける精神的な影響について

○高橋 晶^{1,2,3}¹筑波大学医学医療系災害・地域精神医学、²茨城県立こころの医療センター、³筑波メディカルセンター病院精神科

S17-4 COVID-19に対する症状マネジメント～せん妄や呼吸困難を中心に～

○佐伯 吉規

がん研有明病院

〈コーディネーター〉 佐伯 吉規 がん研有明病院
 北浦 祐一 パナソニック健康保険組合松下記念病院精神神経科

17:30～19:30 **委員会シンポジウム 9 (精神保健福祉法委員会)**
精神科入院におけるアドボケイト制度の具体的な形

司会：中島 直 医療法人社団新新会多摩あおば病院
 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

CS9-1 アドボケイト制度の具体的な姿——精神障害者の立場から

○桐原 尚之

全国「精神病」者集団

CS9-2 精神科入院におけるアドボケイト制度の具体的な形—単科精神科病院での実際的なアドボケイト導入について—

○中島 公博

医療法人社団五稜会病院

CS9-3 日本の制度に足りないものは何か～海外との比較。海外視察を通じて～

○高橋 智美

日本弁護士連合会

CS9-4 地域支援機関の視点からのアドボケイト制度

○渡邊 乾

訪問看護ステーションKAZOC

CS9-5 大阪精神医療人権センターによる精神科アドボケイトの提案——障害者総合支援法に基づく早期導入を

○原 昌平

認定NPO法人大阪精神医療人権センター

〔指定発言〕

佐竹 直子

国立精神・神経医療研究センター病院

〈コーディネーター〉 佐竹 直子 国立精神・神経医療研究センター病院
 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター



9月19日（日） G会場（国立京都国際会館 1階 Room D）

~~8:30-10:10~~

ワークショップ 1（司法精神医学委員会）
統合失調症との鑑別が難しい精神鑑定事例

開催中止

司会：黒田 治 東京都立松沢病院
村松 太郎 慶應義塾大学医学部

WS1

〈講演者〉

五十嵐 禎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター
田口 寿子 神奈川県立精神医療センター
太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
赤崎 安昭 鹿児島大学医学部

〈コーディネーター〉 五十嵐 禎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター

10:50~12:30

ワークショップ 2（日本総合病院精神医学会 ECT 委員会 合同企画）
Covid-19下でのECT技法

※本ワークショップは事前にお申し込みをされた方のみご参加可能です

司会：嶽北 佳輝 関西医科大学医学部精神神経科学講座
諏訪 太郎 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)

WS2

〈ファシリテーター〉

青木 宣篤 関西医科大学医学部精神神経科学講座
飯田 仁志 福岡大学医学部精神医学教室
坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室
成田 尚 北海道大学
坂寄 健 日本医科大学
安田 和幸 山梨大学医学部精神神経医学教室

〈コーディネーター〉 嶽北 佳輝 関西医科大学医学部精神神経科学講座
諏訪 太郎 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)

13:10~14:50 **ワークショップ3**

—症例ディスカッションを通じてガイドラインの使い方を学ぶ—EGUIDEプロジェクト

司会：飯田 仁志 福岡大学
稲田 健 東京女子医科大学

WS3	〈講演者〉	柏木 宏子	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
		木本 啓太郎	東海大学
		山形 弘隆	山口大学
		飯田 仁志	福岡大学
		市橋 香代	東京大学医学部附属病院
		稲田 健	東京女子医科大学
		大井 一高	岐阜大学
		小笠原 一能	名古屋大学
		橋本 直樹	北海道大学
		橋本 亮太	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
		古郡 規雄	獨協医科大学精神神経医学講座
		堀 輝	福岡大学医学部精神医学教室
		安田 由華	医療法人フォスター
		山田 恒	兵庫医科大学
		渡邊 衡一郎	杏林大学

〈コーディネーター〉 稲田 健 東京女子医科大学
橋本 亮太 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
渡邊 衡一郎 杏林大学

15:20~16:20 **教育講演5 (利益相反委員会)**

司会：下田 和孝 獨協医科大学精神神経医学講座

EL5 **利益相反 (COI) の新しい課題 —組織COIと診療ガイドラインのCOI—**○仙波 純一
東京愛成会たかつきクリニック~~17:30~20:00~~ **ワークショップ4 (精神保健に関する委員会)**

複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ

開催中止

※本ワークショップは事前にお申し込みをされた方のみご参加可能です

司会：河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学教室

WS4	〈講演者〉	河西 千秋	札幌医科大学医学部神経精神医学教室
		張 賢徳	帝京大学医学部付属溝口病院
		太刀川 弘和	筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学
		川島 義高	明治大学文学部心理社会学科臨床心理学専攻
		稗田 里香	武蔵野大学人間科学部社会福祉学科

〈コーディネーター〉 太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学
張 賢徳 帝京大学医学部付属溝口病院



9月19日（日） H会場（国立京都国際会館 1階 Room E）

8:30~10:10 ワークショップ5（小児精神医療委員会）

小児精神医療入門:新シリーズ(4)子どもが示す症状の多様性:その意味と疾患との関連について

司会：松本 英夫 東海大学
山下 洋 九州大学医学部附属病院

WS5 〈講演者〉 佐々木 剛 千葉大学医学部附属病院
野邑 健二 名古屋大学
松田 文雄 医療法人翠星会松田病院
館農 勝 医療法人ときわ病院

〈コーディネーター〉 松本 英夫 東海大学
齊藤 万比古 恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院

10:40~12:20 ワークショップ6

評価尺度を用いた抑うつ症状の重症度評価を行う際の留意点

司会：稲田 俊也 名古屋大学医学部附属病院
香月 あすか 社会福祉法人二丈福祉会

WS6 〈講演者〉 兼田 康宏 岩城クリニック
岩本 邦弘 名古屋大学医学部附属病院
石塚 佳奈子 名古屋工業大学保健センター
馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
久保田 智香 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
堀 輝 福岡大学医学部精神医学教室

〈コーディネーター〉 香月 あすか 社会福祉法人二丈福祉会
稲田 俊也 名古屋大学医学部附属病院

13:10~14:50 ワークショップ7（性同一性障害に関する委員会）

性同一性障害/性別違和に対する精神科領域の診療と身体的治療

司会：織田 裕行 関西医科大学医学部精神神経科学講座
針間 克己 はりまメンタルクリニック

WS7 〈講演者〉 針間 克己 はりまメンタルクリニック
織田 裕行 関西医科大学医学部精神神経科学講座
舩森 直哉 札幌医科大学医学部泌尿器科学講座
難波 祐三郎 岡山大学病院ジェンダーセンター,形成外科

〈コーディネーター〉 織田 裕行 関西医科大学医学部精神神経科学講座
針間 克己 はりまメンタルクリニック

15:20~17:00 **ワークショップ 8**
「気軽に上手にシンプルに」介入できるアルコール使用障害

司会：福田 貴博 あきやま病院
長 徹二 一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん

WS8 <講演者>

射場 亜希子	兵庫県立姫路循環器病センター
岡 知加	三重大学附属病院
角南 隆史	佐賀県医療センター好生館
手塚 幸雄	独立行政法人国立病院機構琉球病院
西村 康平	神奈川県立精神医療センター

<コーディネーター> 長 徹二 一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん
池田 俊一郎 関西医科大学医学部精神神経科学講座
田中 増郎 公益財団法人慈圭会慈圭病院

17:30~19:10 **ワークショップ 9**
思春期臨床を学ぶ：逆境的环境を生きた発達障害児の治療・支援を通して

司会：岩垂 喜貴 医療法人財団青溪会駒木野病院

WS9 <講演者>

岩垂 喜貴	医療法人財団青溪会駒木野病院
牛島 洋景	うしじまこころの診療所

<コーディネーター> 齊藤 万比古 恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック



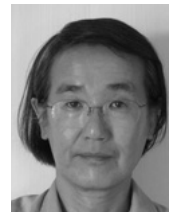
9月19日（日） I会場（国立京都国際会館 1階 さくら）

8:30~9:30 教育講演 6

司会：石井 良平 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究所

EL6 脳波が脳波になるまで —脳波黎明期における Alfred Loomis の功績—

○宮内 哲
関西医科大学生理学講座

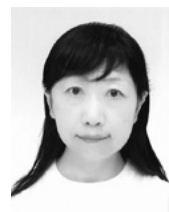


9:30~10:30 教育講演 7

司会：木下 利彦 関西医科大学医学部精神神経科学講座

EL7 神谷美恵子の生涯とその苦悩 ～求道者として、一人の女性として～

○本多 奈美
東北大学大学院教育学研究科教育心理学講座臨床心理学分野



10:40~11:40 教育講演 8

司会：野村 健介 社会福祉法人日本心身障害児協会島田療育センター

EL8 児童虐待と精神医学

○山下 浩
さいたま市子ども家庭総合センター



11:40~12:40 教育講演 9

司会：磯谷 俊明 四国大学看護学部看護学科脳と心の研究室、保健管理センター

EL9 脳波に向精神薬がもたらす影響

○吉村 匡史^{1,2}
¹関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科、
²関西医科大学総合医療センター精神神経科



13:10~14:10 **教育講演 10**

司会：吉村 匡史 関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科、関西医科大学総合医療センター精神神経科

EL10 **新型コロナウイルス感染症・災害に関して精神科に必要な危機管理**○高橋 晶^{1,2,3}

¹筑波大学医学医療系災害・地域精神医学、²茨城県立こころの医療センター、
³筑波メディカルセンター病院精神科

14:10~15:10 **教育講演 11**

司会：成本 迅 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

EL11 **脳病理から考える認知症の症候と病態**

○新井 哲明

筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

15:20~16:20 **教育講演 12**

司会：奥川 学 医療法人亀廣記念医学会関西記念病院

EL12 **最先端イメージングで迫るシナプス病態研究**

○林（高木） 朗子

理化学研究所・脳神経科学研究センター・多階層精神疾患研究チーム

16:20~17:20 **教育講演 13**

司会：竹林 実 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

EL13 **iPS細胞を用いた神経疾患研究**

○六車 恵子

関西医科大学





17:30~18:30 **教育講演 14**

司会：長尾 喜一郎 医療法人長尾会ねや川サナトリウム

EL14

俳句と短歌を通してみたホモ・ロクウェンス（喋るヒト）としての統合失調症

○飯森 真喜雄^{1,2}

¹医療法人社団のぞみいもりこころの診療所、²東京医科大学名誉教授



18:30~19:30 **教育講演 15**

司会：米田 博 大阪精神医学研究所新阿武山病院

EL15

解離性障害における「他者性の問題」

○岡野 憲一郎

京都大学教育学部



9月19日（日） J会場（国立京都国際会館 1階 スワン）

8:30~10:30

委員会シンポジウム 10（認知症委員会）

精神科だからこそできる多職種協働による包括的支援 ～認知症診療における多職種の役割～

司会：三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
内海 久美子 砂川市立病院

CS10-1 認知症多職種連携における精神科医の役割

○小林 直人
(医)湖山荘あずま通りクリニック

CS10-2 認知症支援における精神保健福祉士の役割

○柏木 一恵
公益財団法人浅香山病院

CS10-3 認知症の評価と作業療法の実践

○植田 郁恵、大沢 愛子
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

CS10-4 認知症高齢者の入院時における医療同意能力の評価と支援

○江口 洋子
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

〈コーディネーター〉 内海 久美子 砂川市立病院
武田 雅俊 大阪河崎リハビリテーション大学
三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

10:40~12:40

委員会シンポジウム 11（ECT・rTMS 等検討委員会）

患者レジストリを基軸としたrTMS療法の適正使用と全国展開

司会：水野 雅文 東京都立松沢病院
三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

CS11-1 NCNP病院における包括的うつ病治療の実際

○鬼頭 伸輔^{1,2}
¹国立精神・神経医療研究センター病院、²東京慈恵会医科大学精神医学講座

CS11-2 市販後使用成績調査の現状と課題

○中村 元昭^{1,2}
¹昭和大学発達障害医療研究所、²神奈川県立精神医療センター

CS11-3 オールジャパンTMSデータベース・レジストリ構築に向けた取り組み

○野田 賀大
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

CS11-4 関西TMSネットワークの取り組み

○高橋 隼¹、今津 伸一²、戸井 優樹³、佐野 祥子⁴、池田 俊一郎⁵
¹和歌山県立医科大学、²大阪医科大学、³公益財団法人浅香山病院、⁴医療法人杏和会阪南病院、⁵関西医科大学医学部精神神経科学講座



CS11-5 臨床TMS研究会の取り組みと今後の方向性

○三村 将

慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

〈コーディネーター〉 中村 元昭 昭和大学発達障害医療研究所
鬼頭 伸輔 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

13:10~15:10 シンポジウム 18

古くて新しい物質使用障害の援助 —物質使用自体以外に注目した介入—

司会：成瀬 暢也 埼玉県立精神医療センター
齋藤 利和 医療法人社団博友会平岸病院

S18-1 セクシャルマイノリティと物質使用障害への援助

○西村 康平

神奈川県立精神医療センター

S18-2 アルコール依存症を抱える人への看護の基本を考える

○阿部 かおり

さいがた医療センター

S18-3 生きのびるための非行—奈良少年院における実態調査から—

○中野 温子

奈良少年院

S18-4 被災地でのアルコール問題等への介入から10年。何が功を奏したか、しなかったか振り返る

○高柳 伸康

一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎからころステーション

S18-5 表現型としての物質使用、本質としての生きづらさ

○長 徹二

一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん

〔指定発言〕

齋藤 利和

医療法人社団博友会平岸病院

宮田 久嗣

東京慈恵会医科大学精神医学講座

成瀬 暢也

埼玉県立精神医療センター

〈コーディネーター〉 田中 増郎 慈圭病院
長 徹二 財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん
西村 康平 神奈川県立精神医療センター

15:20~17:20 シンポジウム 19

連合小児発達学研究所の研究の取り組み

司会：小坂 浩隆 福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域
山末 英典 浜松医科大学精神医学講座

S19-1 コロナウイルス感染症拡大防止のための一斉休校が児童のメンタルヘルスに及ぼす影響

○三好 紀子^{1,2}、金井 講治²、松本 恵^{2,3}、橋本 衛²、池田 学²¹大阪大学大学院連合小児発達学研究所附属子どものこころの分子制御機構研究センター、²大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座(精神医学)、³大阪大学大学院連合小児発達学研究所行動神経学・神経精神医学

S19-2 注意欠如多動症の病態へのドパミンD1受容体と活性化ミクログリアの関与：PETによる検討

○横倉 正倫

浜松医科大学精神科

S19-3 自閉スペクトラム症における機能的脳内ネットワークの変化について

○廣澤 徹¹、菊知 充^{1,3}、相馬 大輝²¹金沢大学附属病院こどもの心の診療科、²高岡市民病院、³金沢大学附属病院神経科精神科

S19-4 「子どもみんなプロジェクト」の取り組み

○高橋 純平¹、久能 勝^{1,2}、浦尾 悠子^{1,2}、清水 栄司^{1,2}¹千葉大学医学部附属病院、²千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

S19-5 Genetic-Neuroimagingにおける自閉スペクトラム症の感覚評価

○丁 ミンヨン

福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域、韓国脳研究院

【指定発言】

菊知 充

金沢大学附属病院神経科精神科

〈コーディネーター〉 小坂 浩隆 福井大学医学部病態制御医学講座精神医学領域
山末 英典 浜松医科大学精神医学講座

17:30~19:30 シンポジウム 20

児童精神科から一般精神科へのトランジション

司会：柴田 滋文 都立小児総合医療センター
野村 健介 島田療育センター

S20-1 子どもの成長と家族の安心を支えるトランジションのかたちを考える

○吉川 陽子

医療法人杏和会阪南病院

S20-2 療育センターにおけるトランジション

○野村 健介¹、小沢 愉理²、小沢 浩^{1,2}¹島田療育センター、²島田療育センターはちおうじ

S20-3 北里大学病院精神神経科の児童精神科部門におけるトランジションの取り組み

○神谷 俊介

北里大学医学部精神科学地域児童精神科医療学



S20-4 移行を円滑に進めるための治療戦略 -都立小児総合医療センターの取り組み-

○柴田 滋文
東京都立小児総合医療センター

S20-5 受け入れる側からみたトランジションの現状と臨床的問題

○川上 保之
医療法人社団水府会かわかみ心療クリニック

〈コーディネーター〉 野村 健介 島田療育センター

9月19日（日） K会場（国立京都国際会館 1階 アネックス1）

8:30～10:30 **委員会シンポジウム 12**（精神保健に関する委員会）

日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション

COVID-19に関連した職域の現在の諸問題

司会：荒井 稔 東京臨海病院
井上 幸紀 大阪市立大学CS12-1 **精神科産業医からみた働き方改革およびCOVID-19の労働者ストレスへの影響について**○渡辺 洋一郎
横山・渡辺クリニックCS12-2 **労災認定に係る業務上のストレス評価－令和2年度業務上疾病に関する医学的知見の収集に関する調査研究－**○田中 克俊
北里大学大学院CS12-3 **オンラインでの産業医面接・産業保健活動の課題と展望**○種市 摂子
東京大学大学院教育学研究科CS12-4 **COVID-19に関する労務問題と法**○三柴 丈典
近畿大学

〔指定発言〕

黒木 宣夫
勝田台メディカルクリニック〈コーディネーター〉 荒井 稔 東京臨海病院
井上 幸紀 大阪市立大学11:00～12:00 **教育講演 16**

司会：岡田 元宏 三重大学大学院医学系研究科精神神経科学分野

EL16 **iPS細胞技術及びヒト型疾患モデルマウスを用いた精神疾患の分子病態研究**○中澤 敬信
東京農業大学生命科学部13:10～14:10 **教育講演 17**

司会：加藤 正樹 関西医科大学医学部精神神経科学講座

EL17 **脳内に薬剤を効率的に送達するBBB通過型ナノマシンの基礎と応用**○安楽 泰孝
東京大学大学院工学系研究科



14:10~15:10 **教育講演 18**

司会：曾良 一郎 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

EL18 **脳内炎症と精神疾患**

○富田 博秋
東北大学



15:20~16:20 **教育講演 19**

司会：内田 裕之 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

EL19 **シナプス生理学のトランスレーショナルアプローチ**

○高橋 琢哉
横浜市立大学大学院医学研究科生理学



16:20~17:20 **教育講演 20**

司会：繁田 雅弘 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

EL20 **脳病理に基づくパーキンソン病の基礎と臨床**

○波田野 琢、服部 信孝
順天堂大学医学部神経学講座



18:00~20:00 **シンポジウム 21**

日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション

これからの精神科産業医として必要な見識 ～ポジティブメンタルヘルスの視点より～

司会：渡辺 洋一郎 横山・渡辺クリニック、日本精神科産業医協会
須賀 英道 龍谷大学

S21-1 **ポジティブメンタルヘルスに基づく健康経営施策**

○奥山 真司
トヨタ自動車株式会社

S21-2 **企業のメンタルヘルスにおけるポジティブ精神医学の活用；リワーク、EAP、地域共生活動の連携から**

○佐久間 啓
社会医療法人あさかホスピタル

S21-3 **休職者職場復帰のポジティブプロセス**

○徳永 雄一郎
不知火病院

S21-4

職場におけるポジティブ精神医学の作用点

○工藤 喬

大阪大学キャンパスライフ健康支援センター

〔指定発言〕

大野 裕

認知行動療法研修開発センター

〈コーディネーター〉 工藤 喬
大野 裕大阪大学キャンパスライフ健康支援センター
認知行動療法研修開発センター



9月19日（日） L会場（国立京都国際会館 1階 アネックス2）

8:30～10:30 シンポジウム 22
双極性障害の最新の薬物療法

司会：松尾 幸治 埼玉医科大学医学部精神医学
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

S22-1 双極性障害診療ガイドラインの改訂

○松尾 幸治
埼玉医科大学医学部精神医学

S22-2 躁・軽躁状態の薬物療法 —新たな風を目指して—

○加藤 正樹
関西医科大学医学部精神神経科学講座

S22-3 双極性障害抑うつエピソードの治療は変わったのか？

○高江洲 義和
琉球大学

S22-4 維持期双極性障害に対する向精神薬を用いた薬物治療の最新のエビデンス

○岸 太郎
藤田医科大学医学部精神神経科学講座

S22-5 双極性障害の周産期における薬物療法

○根本 清貴
筑波大学医学医療系精神医学

〈コーディネーター〉 松尾 幸治 埼玉医科大学医学部精神医学
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

10:40～12:40 シンポジウム 23
ハームリダクションの理念とわが国における可能性と課題 ～HIV/AIDS支援と薬物依存症臨床から考える～

司会：成瀬 暢也 埼玉県立精神医療センター
松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター

S23-1 ハームリダクションの概念と諸外国における成果

○徐 淑子
新潟県立看護大学

S23-2 依存症臨床からみたハームリダクションの必要性

○松本 俊彦
国立精神・神経医療研究センター

S23-3 HIV陽性者における薬物使用～薬物を使用したセックス“Chemsex”に対するハームリダクションの可能性

○山口 正純
武南病院

S23-4 性的な少数者と薬物使用～部分的にだけ見えても見えているその背景

○生島 嗣
認定NPO法人ぶれいす東京

〔指定発言〕

成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター

〈コーディネーター〉 松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター
成瀬 暢也 埼玉県立精神医療センター

13:10～15:10 シンポジウム 24
ギャンブル依存

司会：池田 俊一郎 関西医科大学医学部精神神経科学講座
籠本 孝雄 大阪府こころの健康総合センター

S24-1 脳画像研究から見たギャンブル障害の病態生理

○鶴身 孝介
京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)

S24-2 ギャンブル障害への取り組み

○入来 晃久
大阪精神医療センター・こころの科学リサーチセンター

S24-3 Jacobsの「アディクションの一般理論」とギャンブル障害における小児期逆境体験

○小林 桜児
神奈川県立精神医療センター依存症診療科

S24-4 ギャンブル等依存症対策における精神保健福祉センターの役割

○平山 照美
大阪府こころの健康総合センター

S24-5 ギャンブル障害のアセスメントと治療のコツ

○橋本 望
岡山県精神科医療センター

〈コーディネーター〉 池田 俊一郎 関西医科大学医学部精神神経科学講座
石井 良平 大阪府立大学

15:20～17:20 シンポジウム 25
精神疾患に併存する睡眠障害の診断と治療を考える

司会：高江洲 義和 琉球大学
栗山 健一 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S25-1 統合失調症に併存するレストレスレッグス症候群の診断と治療を考える

○鈴木 正泰
日本大学医学部精神医学系

S25-2 不安障害に併存する不眠症の診断と治療を考える

○吉池 卓也、栗山 健一
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部

S25-3 睡眠時無呼吸症候群とうつ病の重複への気づきと対応

○小鳥居 望^{1,2}、土生川 光成²、小曾根 基裕²
¹小鳥居謙早病院、²久留米大学医学部神経精神医学講座



S25-4 双極性障害に併存する睡眠・覚醒リズム障害の診断と治療を考える

○高江洲 義和
琉球大学

S25-5 認知症に併存するレム睡眠行動障害の診断と治療を考える

○松井 健太郎^{1,2}
¹国立精神・神経医療研究センター、²東京女子医科大学精神医学講座

【指定発言】

栗山 健一
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈コーディネーター〉 高江洲 義和 琉球大学
栗山 健一 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

17:30~19:30 シンポジウム 26
成人期のASDとADHD ～診断、治療における共通点と相違点について～

司会：岩波 明 昭和大学医学部精神医学講座
横山 富士男 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S26-1 ASDとADHDの概念と生物学的指標—表層の症状と基底の生物学的基盤における共通点と相違点—

○小野 和哉
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

S26-2 成人期のASDとADHD ～診断、治療における共通点と相違点について

○中村 暖
昭和大学精神医学教室

S26-3 デイケアにおける成人期発達障害支援

○五十嵐 美紀
昭和大学附属烏山病院

S26-4 成人期のASDとADHDの当事者活動の実態～参加の目的と効果、課題について～

○広野 ゆい
NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会)

【指定発言】

柏 淳
ハートクリニック横浜

〈コーディネーター〉 岩波 明 昭和大学医学部精神医学講座

9月19日（日） M会場（国立京都国際会館 2階 Room I）

8:30~9:20

教育講演 21

字幕(英→日)

司会：金沢 徹文 大阪医科薬科大学神経精神医学教室

EL21

Approaches and Hurdles to Implementing Pharmacogenetics in Mental Health Care○Chad Bousman
Univeristy of Calgary

〈コーディネーター〉 金沢 徹文 大阪医科薬科大学神経精神医学教室



9:20~10:30

教育講演 22

字幕(英→日)

司会：金沢 徹文 大阪医科薬科大学神経精神医学教室

EL22

Genomic Risk Factors and Biomarkers for Mental Disorders○Stephen Glatt
State University of New York, Upstate Medical Unviersity

〈コーディネーター〉 金沢 徹文 大阪医科薬科大学神経精神医学教室



10:40~12:40

**Fellowship Award Symposium1
Gambling disorder**

Chairperson : Tomohiro Shirasaka Department of Psychiatry, Teine Keijinkai Hospital, Japan

FAS1-1

Gambling Disorder in Brazil: Context and Challenges○Thiago Roza
Department of Psychiatry, Hospital de Clinicas de Porto Alegre/Federal University of Rio Grande do Sul, Brazil

FAS1-2

There's an app for that. Are mobile health apps being underutilised for problem gambling?○Kelly Ridley
West Australian Country Health, Australia

FAS1-3

Gambling Disorder in the USA○Yee Xiong
Department of Psychiatry, University of Wisconsin, Madison, USA

FAS1-4

The Social and Healthcare Situation on Gambling Disorder in Japan○Miki Ichiro Yano^{1,2}¹Tsukuba Psychosomatic Clinic, Mito Mental Clinic,
²Department of Neuropsychiatry, the University of Tokyo, Japan〈Coordinators〉 Toshitaka Ii : Aichi Medical University
Tsuayoshi Akiyama : NTT Medical Center, Tokyo



13:10~15:10 **Fellowship Award Symposium2**
Gambling disorder

Chairperson : Toshitaka Ii Aichi Medical University, Japan

FAS2-1 Gambling Disorder in Portugal

○Nuno Silva
Conde Ferreira Healthcare Center, Portugal

FAS2-2 Betting and gambling disorder in the UK

○Lucy Stirland
Centre for Clinical Brain Sciences, University of Edinburgh, United Kingdom

FAS2-3 Gambling, The Iranian Illusion Of Becoming Wealthy

○Fahimeh Saeed
Razi Psychiatric Hospital, University of Social Welfare and Rehabilitation Sciences, Tehran, Iran

FAS2-4 Gambling Disorder in Japan: current situation, recent studies, and future perspectives

○Ryuhei So
Okayama Psychiatric Medical Center, Japan

〈Coordinators〉 Toshitaka Ii : Aichi Medical University
Tsuyoshi Akiyama : NTT Medical Center, Tokyo

15:20~16:20 **教育講演 23**

字幕(英→日)

司会 : 竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

EL23 The Treatment of Schizophrenia: How Far Have We Come?

○John Kane
The Donald and Barbara Zucker Hillside School of Medicine

〈コーディネーター〉 竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室



16:20~17:20 **教育講演 24**

字幕(英→日)

司会 : 嶽北 佳輝 関西医科大学医学部精神神経科学講座

EL24 Genetics in Psychiatry: methods, applications and future perspectives

○Chiara Fabbri
University of Bologna; King's College London

〈コーディネーター〉 加藤 正樹 関西医科大学医学部精神神経科学講座



17:30~18:30 **教育講演 25**

字幕(英→日)

司会：加藤 正樹 関西医科大学医学部精神神経科学講座

EL25

Precision Medicine in Mood Disorders○Alessandro Serretti
University of Bologna

〈コーディネーター〉 加藤 正樹 関西医科大学医学部精神神経科学講座

18:30~19:30 **教育講演 26**

字幕(英→日)

司会：竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

EL26

Current hot topics in the treatment of schizophrenia○Stefan Leucht
Technical University of Munich

〈コーディネーター〉 竹内 啓善 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室





9月19日（日） N会場（国立京都国際会館 2階 Room J）

8:30~10:30

シンポジウム 27

超社会性を呈する希少疾患に着目した社会性認知研究の現状と展望

司会：木村 亮 京都大学大学院医学研究科
富和 清隆 東大寺福祉療育病院

S27-1 超社会性を呈する希少疾患、ウィリアムズ症候群とは？

○木村 亮
京都大学大学院医学研究科

S27-2 ウィリアムズ症候群児者におけるコミュニケーションの特徴：自閉スペクトラム症との対比

○浅田 晃佑
東洋大学社会学部

S27-3 ウィリアムズ症候群児者における社会的認知の階層的処理

○平井 真洋
名古屋大学大学院情報学研究科

S27-4 人工エージェントを用いた社会性の測定

○寺田 和憲
岐阜大学

S27-5 ASDとWSにみるヒト情報処理とモノ情報処理のへだたり

○小嶋 秀樹
東北大学大学院教育学研究科

〈コーディネーター〉 木村 亮 京都大学大学院医学研究科
平井 真洋 名古屋大学
寺田 和憲 岐阜大学

10:40~12:40

シンポジウム 28

ゲーム障害の現状と今後の展望

司会：片上 素久 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

S28-1 インターネット依存・ゲーム症の予防

○中山 秀紀
北仁会旭山病院

S28-2 ゲーム障害の久里浜医療センターにおける取り組みについて

○松崎 尊信、西村 光太郎、樋口 進
国立病院機構久里浜医療センター

S28-3 児童精神科領域における「インターネット依存」に関する支援

○牧野 和紀
埼玉県立精神医療センター

S28-4 当院におけるゲーム障害治療と県内関係機関との連携づくり

○海野 順
医療法人社団光風会三光病院

S28-5 **ゲーム障害における心理的介入**

○片上 素久

大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

〈コーディネーター〉 片上 素久 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
 中山 秀紀 医療法人北仁会旭山病院

13:10~15:10 シンポジウム 29
ロボット技術が精神科診療において果たす役割

司会：村松 太郎 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
 松本 吉央 産業技術総合研究人間拡張センター

S29-1 **精神障害者へのロボット介入の潜在性**

○熊崎 博一

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

S29-2 **ASD療育においてロボットができる役割**

○小嶋 秀樹

東北大学大学院教育学研究科

S29-3 **精神科治療を目指した対話技術開発**

○吉川 雄一郎

大阪大学

S29-4 **うつ病・ひきこもり患者にロボットだからできる役割**○加藤 隆弘¹、松島 敏夫¹、松尾 敬太郎¹、吉川 雄一郎²、熊崎 博一³

¹九州大学大学院医学研究院精神病態医学、²大阪大学大学院基礎工学研究科、
³国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S29-5 **精神科臨床でロボットを使用する上で留意すべきこと**

○宮尾 益知

どんぐり発達クリニック

〔指定発言〕

田中 文英

筑波大学理工学群

加藤 忠史

順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

〈コーディネーター〉 熊崎 博一 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
 加藤 隆弘 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
 吉川 雄一郎 大阪大学大学院基礎工学研究科



15:20~17:20 **シンポジウム 30**
認知症バイオマーカー：血液による診断評価という新時代

司会：森原 剛史 大阪大学認知症プレジジョン医療開発学寄附講座
徳田 隆彦 放射線医学総合研究所

S30-1 **アルツハイマー病体液バイオマーカーの最近の動向**

○森原 剛史
大阪大学認知症プレジジョン医療開発学寄附講座

S30-2 **認知症の血漿バイオマーカー**

○工藤 喬
大阪大学キャンパスライフ健康支援センター

S30-3 **認知症発症の血液バイオマーカー探索：久山町研究**

○小原 知之^{1,2}、二宮 利治²
¹九州大学大学院医学研究院精神病態医学、²九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学

S30-4 **各種認知症性疾患を網羅する包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの開発**

○徳田 隆彦、建部 陽嗣
量子科学技術研究開発機構

S30-5 **血液バイオマーカー開発の現状と認知症医療への貢献の可能性**

○中村 昭範
国立長寿医療研究センターバイオマーカー開発研究部

〈コーディネーター〉 森原 剛史 大阪大学認知症プレジジョン医療開発学寄附講座

17:30~19:30 **シンポジウム 31**
若手精神科医の国際協働活動とその展望

司会：大矢 希 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、認定特定非営利法人日本若手精神科医の会
入来 晃久 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター、認定特定非営利法人日本若手精神科医の会

S31-1 **日本若手精神科医の会 (JYPO) の活動とその展望**

○安藝 森央^{1,8}、今川 弘²、入来 晃久³、佐竹 祐人⁴、清水 勇雄⁵、福島 弘之⁶、堀之内 徹⁹、田中 増郎¹⁰、大矢 希⁷

¹京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)、²東邦大学医療センター大森病院、³地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立精神医療センター、⁴大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座(精神医学)、⁵医療法人恵風会高岡病院、⁶医療法人桜花会醍醐病院、⁷京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、⁸認定特定非営利法人日本若手精神科医の会、⁹市立稚内病院、¹⁰公益財団法人慈圭会慈圭病院

S31-2 **学術的国際交流におけるオンラインコミュニケーションの有用性**

○佐竹 祐人^{1,2}、入来 晃久²、河岸 嶺領²、射場 亜希子²、今川 弘²、大熊 彩子²、北岡 淳子²、倉持 泉²、清水 俊宏²、西村 有紗²、増田 将人²、安藝 森央²、大矢 希²

¹大阪大学大学院・医学系研究科精神医学教室、²認定特定非営利活動法人日本若手精神科医の会

S31-3 **Global networking and research by early-career psychiatrists in the post-COVID world: why and how?**

○Victor Pereira-sanchez
Department of Child and Adolescent Psychiatry, NYU Grossman School of Medicine

S31-4

Early career psychiatrists in LMIC: Is there a place for international collaborations in the peri-COVID era

○Margaret Ojeahere

Department of Psychiatry, Jos University Teaching Hospital

【指定発言】

秋山 剛

NTT 東日本関東病院

〈コーディネーター〉 安藝 森央

京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座（精神医学）、認定特定非営利法人日本若手精神科医の会



9月19日（日） ○会場（国立京都国際会館 2階 Room K）

8:30~10:30 シンポジウム 32
With コロナに対応する精神医学教育とそのイノベーション

司会：井上 猛 東京医科大学精神医学分野
三島 和夫 秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

S32-1 医学生に提供することが望ましい精神医学教育の模索

○市来 真彦^{1,2}

¹東京医科大学学生・職員健康サポートセンター、²東京医科大学精神医学講座

S32-2 学生を対象としたインターネットを用いた精神医学教育

○松崎 朝樹

筑波大学医学医療系精神医学

S32-3 初期臨床研修における精神科研修の課題と精神科医の役割

○内野 俊郎

久留米大学医学部神経精神医学講座

S32-4 卒前・卒後のシームレスな精神医学教育

○藤田 博一

高知大学医学部医学教育創造・推進室

〔指定発言〕

米田 博

特定医療法人大阪精神医学研究所

岡本 泰昌

広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学

〈コーディネーター〉 井上 猛 東京医科大学精神医学分野
三島 和夫 秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

10:40~12:40 シンポジウム 33
COVID-19時代の精神分析臨床

司会：木村 宏之 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野
江崎 幸生 藤田医科大学医学部精神神経科学

S33-1 「精神的に密な関係性」の再検討・再構築

○奥寺 崇

クリニックおくでら

S33-2 COVID-19時代における「社会的ひきこもり」の新しい理解と精神分析

○加藤 隆弘

九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S33-3 構造の暴力的破壊—総合病院の精神科医の立場から—

○衛藤 暢明、川崎 弘詔

福岡大学医学部精神医学教室

S33-4

COVID-19時代の精神療法

○木村 宏之

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

〔指定発言〕

福本 修

医療法人社団碧水会長谷川病院

〈コーディネーター〉 木村 宏之 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

13:10～15:10

シンポジウム 34**社会的差別と精神疾患**司会：金沢 徹文 大阪医科薬科大学神経精神医学教室
阿部 大樹 公益財団法人東京都医学総合研究所

S34-1

エスニシティと精神障害

○阿部 大樹

東京都医学総合研究所

S34-2

精神医療とメディア ～コロナ禍下の精神科病院の取材経験から考える～

○持丸 彰子

NHK制作局

S34-3

「ハーフ」と呼ばれる人々の対処実践と「否認するレイシズム」

○ケイン 樹里安

大阪市立大学都市文化研究センター研究員

S34-4

性の多様性と文化との関係性○康 純^{1,2}¹関西大学保健管理センター、²大阪医科薬科大学神経精神医学教室〈コーディネーター〉 金沢 徹文 大阪医科薬科大学神経精神医学教室
阿部 大樹 公益財団法人東京都医学総合研究所

15:20～17:20

シンポジウム 35**精神医学における合理性と責任 ―哲学的観点から―**

司会：村井 俊哉 京都大学大学院医学系研究科

S35-1

精神医学における道徳の問題の医療化

○鈴木 貴之

東京大学大学院総合文化研究科

S35-2

感情は適切にコントロールされるべきものなのか？

○田所 重紀

札幌医科大学医学部神経精神医学講座

S35-3

責任と理由応答性

○信原 幸弘

東京大学(名誉教授)



S35-4 精神科医療における認知的不正義と合理性のリハビリテーション

○榎原 英輔
東京大学医学部附属病院

S35-5 非難なき責任の承認と自己決定支援

○植野 仙経
京都大学

〈コーディネーター〉 榎原 英輔 東京大学医学部附属病院

17:30~19:30 シンポジウム 36

性加害への治療的アプローチ —性の課題を持つ少年たちに、私たちができる支援とは—

司会：上野 千穂 京都市第二児童福祉センター
富田 拓 網走刑務所北海道家庭学校

S36-1 現代の性加害少年はどのような少年達で、何が問題なのか

○定本 ゆきこ
京都少年鑑別所

S36-2 児童自立支援施設における性的加害行動を行なった子どもへの支援

○相澤 林太郎
国立武蔵野学院

S36-3 性非行在院者への処遇について —特性を踏まえた多職種・多機関連携—

○小出 伸行
貴船原少女苑

S36-4 児童相談所で性加害児童を診るということ

○上野 千穂
京都市第二児童福祉センター

〈コーディネーター〉 上野 千穂 京都市第二児童福祉センター